

	2016年 7月発行 九州手話サークル 連絡協議会
---	------------------------------------

【掲載内容】

- ◎九州手話サークル連絡協議会
会長 中元教博 挨拶
- ◎平成 28 年度九手連幹部会報告
- ◎平成 28 年度九手連通信員会議報告
- ◎平成 28 年度九手連評議員会報告
- ◎平成 28 年度九手連研修会報告

九州手話サークル連絡協議会 会長挨拶

28 年度を迎えて



九州手話サークル連絡協議会
会長 中元 教博

今年も引き続いて会長を務めることになりました中元です。各県理事を通じて各県手連と連携した活動を進めて行きたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

先ずは、先の熊本地震で被災されました地域や会員、関係者の方々に対し深くお見舞い申し上げますと共に、早い復興をお祈りします。私たち九手連と致しましても聴覚障害者災害救援九州ブロック本部を通じて、少しでも被災地の関係者の方々のお役に成れるよう努めて行きたいと考えております。

さて、先日の宮崎市で開催した一連の行事におきましては、地震や豪雨等自然災害の恐ろしさをまざまざと感じた中で、多くの参加者のもと実施されました。

幹部会議では、「防災・減災」をテーマにし、各県の取り組みの現状や聴覚障害者の方々を対象としたアンケート報告等を基に検討を重ねました。

また、研修会では東京都手話サークル連絡協議会の高田代表にご講演を頂き、都サ連の活動や東日本大震災後の視察とその後についてお話を頂きました。

会場から熊本震災の現状報告を求める声もあり、急遽熊本からの参加者にも地震発生時の状況や取り組み状況について報告をして頂きました。

正に今、私たち九州が直面している課題であり、取り組まなければならない問題と思
いますが、勿論私達単独で行動できるものでもありません。

今後の復興に対しては、地方行政を通じ国に対して意見・要望を行う必要があると思
います。

今回の震災や研修会を受け、先ずは、サークル会員の安否確認・被害状況の確認を行
うと共に、会員各位におかれましては、地元地域の障害者に対する安否確認と一声運動
の大切さを改めて感じたところです。

そのためにも常日頃から地域に根差した活動を各手話サークルが積極的に展開し、信
頼される手話通訳者を目指していく必要があります。

そして九手連は、強い組織力を培いながら、九州3団体で連携をとり、九州各県の皆さ
んの意見を十分に確認しながら、議論を重ねて行かなければならないと考えています。
皆さまの更なるご理解と御協力をお願いし、就任に当たっての挨拶とします。

よろしく お願いします。

幹部会議

報告者：佐賀県 吉田 智穂



6月25日土曜日、宮崎県立聴覚障害者セン
ターにて、九手連幹部研修会が開かれました。
まず、各県より事前に出された災害について
のアンケートに対する回答の報告がありま
した。東日本大地震、豪雨水害などで、災害
対策が多くの人々の片隅に大小様々に意識が
芽生えていた矢先に熊本地震が起こり、対策
も心構えもより具体的に変わっているよう
に思いました。報告の内容は、災害時の心配

事、困ること、助かったこと（よかったこと）、要望などのアンケート項目をもとに、
各県より地域の課題や対策などが紹介されました。各県共通して安否確認についての意
見が出ており、参加者は資料に目を通しながら発表者の補足説明にうなづいたり、メモ
を残したりしていました。そして、熊本、大分の地震発生からの経緯、福岡からの支援
の取り組みについても、具体的な報告がありました。

後半は防災、減災について、地域で、またはサークル会員としてなど様々な分野か
らどう取り組むかを、4つのグループに分かれて討議が行われました。参加者は自分の
地域の現状や手話サークルの取り組みなどについて話題を上げ、どのグループでも時間
いっぱい活発に話し合いが行われ、あっという間に時間が過ぎていきました。「災害
時だけに限らず、平時からできる取り組みが必要である」、「聴覚障害者と地域とのつな
がり支援する」と、各グループの発表で意見が出され、今後、私たちが目指してい

たい事として参加者みんなで共通認識ができました。そして、何より、支援について考えたり取り組んだりすることだけに目を向けるのではなく、同じ地域で活動をしているサークル会員同士のつながり、仲間意識が大事だという意見もありました。同じ仲間としてお互いを大事にしあうことで、大きな集団の力の礎になるんだということ再認識し、とても有意義な研修会になりました。

通信員会議

報告者：長崎県 草野 徳

九州各県の通信員が集まり、理事も参加して頂き、機関紙「はっけん」の記事提供や九手連 HP への書き込み、また各県理事と連携してアンケート調査回答の取りまとめなど協力して行く事を確認しました。

九手連機関紙「はっけん」の発行については、7月は宮崎、11月は佐賀、4月は長崎が担当する事になりました。発行に関しては内容や発行までの内容や時期の目安が分りにくいと言う事も有りましたが、新しく資料の提案が有り、よりスムーズに機関紙の作成が出来ると思います。

九手連 HP への27年度のアクセス数は、11000件以上になりましたが、28年度のアクセス数を更に増やすには、掲載情報の更新・各県手連からの積極的な情報提供や活用が必要と感じられます。堅そうな言い方をしてしまいましたが、皆様の地元の文化や研修会・色々な行事に参加された感想など・・・お気軽に九手連 HP「掲示板」「足あと」に書き込み・情報発信をして頂きますように、お願いと再確認をさせて頂きました。

評議員会議

報告者：熊本県 吉野 綾



各県の評議員30名（うち委任2名）と九手連各役員が出席し、評議員会議が行われました。

来賓として、宮崎県聴覚障害者協会から安藤豊喜理事長が出席されました。今まで共に活動した成果として、堂々と手話ができ、尊厳を持てる今があるということ、これからの新しい時代にむけては、手話言語法の法制化、条例化が大きな課題であること、をお話されました。

27年度の事業報告・決算報告・監査報告、28年度の事業計画案・予算案について、何点か補足説明や質問、討議を経て原案どおり承認されました。事業計画においては、手話言語法制定に向けての具体的方策について質問があり、各団体が足並みを揃える必

要があるとのことで、代表者会議で検討していくという回答がありました。

私自身、3度目の評議員会議でした。少しずつですが、この組織の目的や取組について自分なりの視点で考えられるようになってきたように思います。サークル会員一人一人が、九手連の一員です。各サークル活動においても、このネットワークをうまく活用していけるといいなと感じました。

九手連研修会

報告者：鹿児島県 出森 俊郎

2016年6月26日（日） 宮崎県 KIRISHIMA ツワブキ武道館 参加者132名

講師 東京都手話サークル連絡協議会（都サ連）代表 高田 直樹 氏

- ・午前 「東京都手話サークル連絡協議会（都サ連）の組織について」
- ・午後 「東日本大震災後の視察とその後」

～ 防災について、意見交換・情報交換 ～



手話講習会で勉強を始めたが、修了後すぐに手話サークルに入るといふことにはならなかったという、サークルとの関わりについての自己紹介から始まった。現在、「手話サークルまちだ」会長、都サ連代表を兼務。東京都には100近いサークルがあるが、都サ連加盟は26サークル、会員3000名程度。未加盟のサークルともつながりたいと考えるが、連絡を取り合える状況にない。

都サ連としては毎月の事務局会、2か月に1回の代表者会等の会議があり、都サ連通信も2か月に1回の割合で発行。

都の福祉対策会議、東京都のろう教育を考える会実行委員会をはじめとする他組織とのつながりは多岐にわたる。学生サークルは20余り。高田氏の勤務している玉川学園では、金曜の5～6校時に手話の指導もなされ、学生の手話サークルも活動中。

手話が幅広く広がっていることは感じられた。ただ、例えば政治に対する聴障者の関心は低く、選挙に向けての政見放送のビデオ上映会への参加も少ない。行政としても、投票所にコミュニケーションボードを設置していないという状況。調査をもとに都選管に要望をしている。また、若い者には「困ったことはない」という意識もある。このような状況を繋ぎ合わせてより良い方向に向けていくことも、サークルの役割だろうという思いも語られた。

また、手話に関わる団体は他のボランティア団体とは違うので、全通研と手話サークルの棲み分けを意識しながら活動する必要性も指摘された。

午後は、「東日本大震災後の視察とその後」というテーマ。岩手県、福島県に足を運んでその県手連から話を聞くという取り組みがなされている。いずれの県でも、サークルとしては、安否確認をはじめとしてある程度順調に進めることができた面もあるが、情報不足、物資不足、風評被害、チェーンメール、避難所での生活への支援等々、どうすることもできない面も多かったというようなことを聞いた。

また、岩手、宮城、福島から講師を招いて都サ連一日研修会を開催。防災無線が聞こえなかった、被災地を実際に見てほしい、障害のある被災者の声を聞いてほしい…、という現地の人々の思いも伝えられた。

さらに、都サ連として、「宮城バスツアー」「福島バスツアー」を実施。福島では、現地の語り部の方も同乗していただいた。参加者からは、「なぜ、こんなに復興が遅れているのか？」という声があったという。

これらの話をうかがって、都サ連の、「現地とつながる活動・支援」の様子がよく分かった。

その後、講師の高田代表としては、参加者との意見交換・情報交換をしたいという予定であったが、参加者から熊本の地震災害についての生の声を聞くことも必要ではないかという意見を受けて、熊本の方の報告を聞くことになった。高田代表にも、熊本の地震災害の実態の一部でもつかんでいただけたのではないかと思う。

【編集後記】

4月14日からの熊本地震後、はじめての九手連行事となり、九州各県の会員の皆様にお会いできて、少しホッとする部分もありました。

8月にはリオオリンピックも開催されます。テレビに釘付けになる方も多くいらっしゃるかもしれませんね。

私もあと30歳若ければ、何かの競技で東京オリンピックを目指したいと思ったかも…東京オリンピックは無理でも、手話に年齢は関係ありませんので、私も少しずつ手話のレベルアップができればと思っています。

また皆さまとお会いできることを楽しみにしております。

九州手話サークル連絡協議会

(事務局) 〒861-0143

熊本県熊本市北区植木町大和 34-2

森 保夫

発行責任者：中元 教博

広報担当者：荒川 真任（宮崎）

発行年月日：平成28年7月30日